

後ろ足がムキムキ

アカネズミ



齧歯目ネズミ科
頭胴長8~14cm、尾長7~13cm
通年

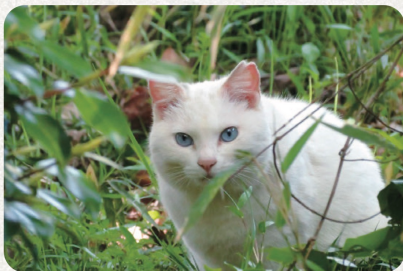


日本全国に生息し、主に地上で生活する。背中は赤褐色、お腹は白色。夜行性でジャンプ力が高く、冬でも冬眠しない。上下2本ずつ生えた前歯は、人の爪のように伸び続ける。雑食で、秋には木の実などを地中に蓄える貯食行動が見られる。

Apodemus speciosus

自由で過酷な暮らし

イエネコ(ノラネコ)



食肉目ネコ科
頭胴長40~50cm、尾長0~35cm
通年



学名にしばしば姿を見せる。V字カットの耳は去勢・不妊手術を受けた印で、同じ個体が複数回手術を受けたことを防ぐための重要な施策。過酷な環境で生きるため寿命は短い。飼いネコは責任を持って室内で育てよう。

Felis catus

なが〜いしっぽと薬指

ニホンカナヘビ

有鱗目カナヘビ科
全長16~27cm
春~秋



北海道から九州まで広く生息する。晴れた日にはひなたぼっこする姿が見られる。薬指が長く、目と耳がよく発達している。尾は体の3分の2ほどあり、捕まると尾を切って逃げる。11月頃地中に潜り冬を越す。

Takydromus tachydromoides

驚異的な運動能力 ハクビシン



食肉目ジャコウネコ科
頭胴長44~66cm、尾長30~49cm
通年



江戸時代には日本に持ち込まれ、現在は重点対策外来種に指定。雑食で果実を好み、農業や生活環境への被害も報告されている。木登りが得意で電線の上も歩ける。アナグマとの見分け方は、額から鼻にかけての白い線（白鼻芯）と長い尾。

Procyon lotor

ルビーレッドの瞳 シマヘビ



有鱗目ナミヘビ科
全長80~200cm
春~秋



在来種で無毒。水辺や草原などに広く生息する。主食はカエル。ほかにも爬虫類、小鳥、ネズミなどを幅広く食べる。繁殖期にはオス同士、コンバットダンスで争う。乾燥シマヘビは漢方薬として利用されている。

Elaphe quadrivirgata

夫婦一緒に子育て タヌキ



食肉目イヌ科
頭胴長45~67cm、尾長12~23cm
通年



夜行性で雑食。山林だけでなく人間の生活環境にも出没する。動物界では珍しく一夫一妻制で、オスも子育てに参加。メスは春に3~5頭を産む。アライグマ（右上）との見分け方は、顔の模様の違いとしっぽのしめの有無。

Nyctereutes procyonoides

縄細でおとなしい タカチホヘビ



有鱗目タカチホヘビ科
全長30~60cm
春~秋



小型で無害な在来種。主にミミズを食べる。地中性で夜間に活動し、見つけにくい。光沢のあるビーズ状の鱗の腹側から皮膚が露出しており、乾燥や高温に弱い。夏に乾いた側溝などに落下すると短時間で干からびてしまう。

Achalatus spinalis

(玉川の仲間たち) おいでよ、玉川の森 動物

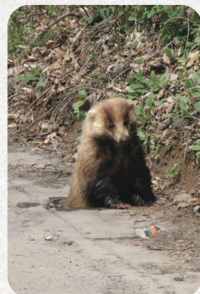
園 義和教授監修・写真提供

よく見られるエリア



キュートな穴掘り名人

ニホンアナグマ



食肉目イタチ科
頭胴長54~74cm、尾長11~17cm
春~秋



昔から里山に生息する在来種。タヌキと混同されムジナとも呼ばれる。鋭い爪でトンネルのような長い巣をつくる。雑食だがミミズを主な食料とし、土の中に尖った鼻先をねじ込みエサを探す。側溝を移動経路に使うことも。

Meles anakuma



自然は
学校は